

## 授業概要

科目名	運動障害性構音障害Ⅱ					授業の種類	演習	講師名				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	2	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年	後期
【授業の目的・ねらい】 構音障害の講義・演習を通じて、正常の呼吸・発声・構音運動の理解と神経・筋病変に起因する構音障害の特徴、その発現メカニズムについて学ぶ。												
【実務者経験】 言語聴覚士として石川病院で幅広いステージの患者様のリハビリに従事。												
【授業全体の内容の概要】 各構音障害について総合的に理解し、訓練方法および発話補助手段についても理解する												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 構音障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等できるようになる 国家試験に即した問題を解くことができる												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	言語聴覚療法の評価診断の手続きを説明できる											
2	収集する情報の種類を列挙し、模擬的に収集できる											
3	収集した情報から、評価計画を立案できる											
4	機能・活動・参加・背景要因の観点から障害の全体像を把握し、言語治療計画を作成できる											
5	運動障害性構音障害の評価結果を分析・統合し、個別性のある言語治療計画を作成できる											
6	運動障害性構音障害の評価結果を分析・統合し、個別性のある言語治療計画を記述できる											
7	運動障害性構音障害のタイプに応じて計画した言語治療を説明し、実施できる											
8	実習の振り返りと対策：神経系と発声発語器官											
9	実習の振り返りと対策：タイプ分類と発話特徴											
10	実習の振り返りと対策：AMSD											
11	実習の振り返りと対策：言語治療											
12	実習の振り返りと対策：機能・活動・参加・背景要因の観点から障害の全体像を把握する											
13	実習の振り返りと対策：評価結果を分析・統合し、個別性のある言語治療計画を作成する											
14	実習の振り返りと対策：評価結果を分析・統合し、個別性のある言語治療計画を記述する											
15	実習の振り返りと対策：言語治療を説明し、実施する											
【使用教科書・教材・参考書】 ディサースリアの基礎と臨床 第3巻 臨床実用編												
【準備学習・時間外学習】 適宜予習、復習を行う												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。												